

本日のテーマ

こうきょうくうかん
公共空間について、わかります。

キーワード

☐ こうきょうくうかん
公共空間、アゴラ、コーヒーハウス

☐ ハーバーマス、コミュニケーション的理性てきりせい

☐ とうぎ
討議デモクラシー

公共空間 (public space/common space) とは、何ですか？

じぶん 自分でも、なにか 自分の仲間でもない人を、だいさんしゃ 第三者 (third person) と い 言います。

公共空間 は、そうごこうりゅう 第三者と相互交流 (interaction) する ばしょ 場所です。

第三者と相互交流することによって、あら いけん かつどう 新しい意見や活動が生まれます。

こだい 古代ギリシャでは、ひろば 広場 (**アゴラ**) が こうきょうくうかん 公共空間でした。

せいき 17世紀～18世紀のヨーロッパでは、**コーヒーハウス** が公共空間でした。

げんだいしゃかい 現代社会では、たと 例えば、SNS が **公共空間** です。

公共空間 では、たいせつ どんなことが大切ですか？

公共空間 では、いっしょ 第三者と一緒に、たが お互いに なっとく 納得できる かんが 考 え (common good) を さが 探します。

そのためには、相手とよく たいわ 対話 (dialogue) することが だいじ 大事です。

だから、**コミュニケーション的理性** てきりせい (Communicative rationality) が ひつよう 必要です。

コミュニケーション的理性^{てきりせい}とは、何ですか？

ハーバーマス^{はーばーます}という哲学者^{てつがくしゃ}は、次の2つの理性^{つぎ}を考^{かんが}えました。



①道具的理性^{どうぐてきりせい} (Instrumental rationality)

これは、相手を説得^{せつとく} (persuade) するための理性です。

自分の考えを相手に押し付けて、相手を支配^{しはい} (control) してしまします。

②コミュニケーション的理性^{コミュニケーションてきりせい} (Communicative rationality)

これは、相手と対話^{たいわ} (dialog) するための理性です。

相手と自分の意見^{ちが}が違います。では、どうして違いますか？

コミュニケーション的理性^{コミュニケーションてきりせい}は、相手の意見の背景^{はいけい} (background) を想像^{そうぞう} (imagine) します。

そして、相手に共感^{きょうかん} (sympathize) します。

討議デモクラシー^{とうぎ} (Discursive democracy) とは、何ですか？

人々の意見が違^{ちが}うときに、どうしますか？

声の大きさや、数の多^{おほ}さで結論を決めますか？

討議デモクラシーは、そうではありません。

討議デモクラシーは、対話^{たいわ}によって、お互いに納得^{なつとく}できる考^{かんが}え (common good) を探^{さが}す姿勢^{しせい}です。

★公共空間とは何でしょうか。また、公共空間での議論に必要な知性は、何でしょうか。書きましょう。
